こども歴史なぜなに相談室

草戸千軒町遺跡の発掘調査では建物や井戸がたくさん見つかっていますが、なぜその場所がわかったのでしょうか？

「井戸跡が見つかったところ」の写真を見てみましょう。

中央の黒い四角が木で作られた井戸跡です。その周囲を囲むように、地面に線をひいていますが、この線が井戸を作る時に掘った穴の範囲を示しています。この井戸跡の場合は、線の内側の地面が柔らかかったり土の色が少し黒かったので、その境に線を引いてみると写真のようになりました。このように、土の色や固さが違うところを探していくと、地面に掘られた穴の場所がわかります。

井戸跡が見つかったところ

「建物跡が見つかったところ」の写真に写った丸で黒い場所は、土の色や固さが違うところを掘り下げたところで、建物や柵の柱を立てるために掘った穴だということがわかりました。同じく、丸で白いものは建物の柱を立てる時、地面に置いた石で、柱はこの石の上に立っていました。

建物跡が見つかったところ

柱を立てる穴と石の大きさや間隔などを比べることで、建物の大きさや範囲が明らかとなるのです。（例えば写真にあるように、白の点線で囲まれた範囲に建物１軒、青の点線で囲まれた範囲に別の建物１軒が建っていたというふうに考えていきます。）

収蔵庫

発掘調査では、それぞれの穴にどんな役割があるのかを考えることが重要で、その場所から出土した土器などの遺物と組み合わせて考えることで、その場所がいつ頃、何に使われていたのかということまでわかってくるのです。中世の時代の絵には建物なども描かれていますが、実際の柱と柱の間隔がどのくらいなのかなどについては、発掘調査によってはじめて確かめることができます。

草戸千軒Ｉ展示室の実物大模型

広島県立歴史博物館の館内には、「草戸千軒Ｉ展示室」があって、草戸千軒の町の実物大模型があります。この模型は、こうした発掘調査の成果を取り入れて、できるだけ当時の実物に近くなるよう工夫したものです。

この展示室を体感することで、中世の人々がどんな家に住んでどんな暮らしをしていたのかが、具体的に見えてきます。

（主任学芸員 大上 裕士）